

デジタルバックテスト・マルチSP アプリケーションデータ

検水中の浮遊物質量(SS)と吸光度の相関例

概要 SSとは水中に懸濁している粒子径2mm以下の不溶解性物質のことで、環境基準や排水基準では浮遊物質量、JISでは懸濁物質といいます。
JIS K 0102 14.1では検水をろ過し、ろ過材上の残留物の質量を測定し、濃度を求めます。一般に、検水の吸光度が高いとSSが多くなる傾向があり、SS成分の性状がある程度一定の場合には、吸光度の測定値からSS濃度を推測できます。

分析対象 SS (ここではSSとしてカオリン(濁度標準液;カオリン1mg/mL)を使用しました。)

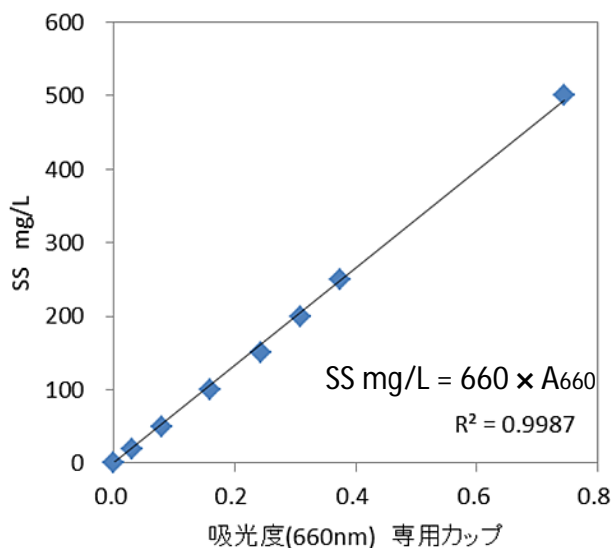
測定濃度 カオリン 0, 20, 50, 100, 150, 200, 250, 500 mg/L

測定波長 660nm

測定範囲 50 ~ 500mg/L

使用セル 専用カップ

操作法 専用カップに純水を採り0調整後、標準液の吸光度を測定します。



ssと吸光度の関係

X軸に吸光度、Y軸にSS mg/Lを取ります。
傾き(K値)、切片(b値)、測定波長を
ユーザー項目に設定すると測定項目一覧から
測定ができます。

右図は一例です。
検水の状態により係数は異なりますので、
公定法の測定値と相関を取ってください。



株式会社 共立理化学研究所
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.

〒145-0071 東京都大田区田園調布5-37-11
TEL:03-3721-9207 FAX:03-3721-0666
<http://kyoritsu-lab.co.jp> kyoritsu@kyoritsu-lab.co.jp